

当世書生気質—学生アンケートより

平野 重光

倉敷芸術科学大学芸術学部

(2004年9月24日 受理)

この一文は研究というよりは、報告書である。わたしが自分の授業に際し、毎時間とったアンケートから、大雑把だが、本学学生の暮らし振りや気質について知りえた若干のことを紹介するものである。対象になった学生は、わたしが2003年度に担当した、「日本近代美術史—1」（登録学生116人）と「現代芸術論」（同117人）（ともに前期開講、選択科目、三年次配当）を受講していた学生たちである。このアンケートは、これといった目的があって始めたのではない。出席を取るのにどんな方法があるかと考えた末、思いついたもので、出席カードにアンケートを便乗させてもらったという態のものである。したがって、質問の内容も毎回の思いつきで、順序立てた問題意識で始めたものではない。一回のアンケートに複数の設問をすることが多く、設問は34項目に上った。紙幅の都合でここでは18項目程度を紹介するに過ぎないが、「当世」の「書生気質」はそれなりに見えてくるかと思う。

1—通学について（回答 95人）

—A. 通学に要する時間

30分以内	71人（74.7%）	40分以内	10人（10.5%）
60分以上	14人（14.7%）		

—B. 通学手段

徒歩	16人（16.8%）	バス	20人（21.0%）
自転車	9人（9.4%）	バイク	32人（33.6%）
車	17人（17.8%）	無回答	1人（1.0%）

—C. 経費（1ヶ月）

1000円未満	41人（43.1%）	2000円未満	12人（12.6%）
3000円未満	7人（7.3%）	5000円未満	6人（6.3%）
5000円以上	3人（3.1%）	1万円以上	10人（10.5%）
2万円以上	5人（5.2%）	不明	6人（6.3%）
無回答	5人（5.2%）		

通学時間の分布では、多くが30分以内の地域に自宅もしくは下宿を持っている。その反面、1時間以上もかかる学生が15パーセント近くいるのは注目される。とりわけ2時間以上かかるのが2人いるのは驚きである。そのことは交通費にも反映されていて、5000円以上かかるという

18人のうち、1万円～2万円が10人もおり、2万円以上かかるという学生が5人もいる。各人、それぞれ事情があつてのことだろうが、時間的にも経済的にも大きな負担であろうと、他人事ながら同情を禁じえない。なお、通学手段については、校門にいたる最後の手段を集計した。道中、乗り継ぎ等による利用手段は一通りでないからである。ちなみにJR（新幹線を含む）を途中利用する学生が14人（14.7%）いることを付記しておきたい。

2—登校日の朝・昼食について（回答 95人）

—A. 朝食

食べてくる	49人（51.5%）	食べないでくる	12人（12.6%）
食べたり食べなかったり	33人（34.7%）	無回答	1人（1.1%）

—B. 昼食

学食	54人（56.8%）	持参	17人（17.9%）
学食だったり持参だったり	13人（13.7%）	学外	5人（5.3%）
その他の組み合わせ	5人（5.3%）	無回答	1人（1.1%）

わたしの学生時代は自宅通学だったが、朝食はほとんど食べたことがなかった。いま、朝食をとらないで出勤する自分の子を見ていて、若者の食生活が気になる。朝食をとってくる者が意外に多かった（51.5%）と思う反面、食べない者と食べたり食べなかったりというのが結構いる（47.3%）のは気になる。ただ、学食でよく食べるメニューをたずねた項目（省略）では、麺類（スパゲッティを含む・26.5%）より米飯類（51.2%）が多かった。単純だが、そんな数字に親心は少し安堵したりする。

3—授業のコマ数について（回答 88人）

この項目（詳細省略）は、各人（3年生）の一週間の授業コマ数について訊ねたものである。いちばんコマ数の少ない学生は8コマ（1人）で、もっとも多い学生は20コマ（4人）も抱えている。平均すると、美術学科では13.7コマ、工芸学科では14.0コマでその差はほとんどないといってよい。上手に組み合わせれば、土、日以外にも自宅研修の日ができるわけで、それを調べてみると、美術、工芸両学科とも各44人中、

1日とれる	美術	21人（47.7%）	工芸	9人（20.4%）
2日とれる	美術	8人（18.1%）	工芸	3人（6.8%）
3日とれる	美術	0人	工芸	1人（2.2%）
1日もとれない	美術	15人（34.0%）	工芸	31人（70.4%）

という次第であった。なぜか、美術学科と工芸学科で大きな差が見える。これはカリキュラムの編成上やむなく起こることなのかもしれないが、その差は4年生になってからの成果に何らかの影響をもたらせるものなのだろうかと考えてしまう。

4—芸大を志したのは？（回答 90人）

—A. いつごろ？

高等学校 43人 (47.7%) 中学校 27人 (30.0%) 小学校 16人 (17.7%)
 就学前 3人 (3.3%) その他 1人 (1.1%)

—B. 芸大進学に反対はあった？

反対なし 72人 (80.0%) 反対あり 18人 (20.0%)

—C. 反対の理由（複数回答）

将来が不安定 13人 (56.5%) 経済負担が大きい 4人 (17.3%)
 趣味の内に止めよ 4人 (17.3%) お前には向いてない 2人 (8.6%)

進路を決定するのは、多くは高等学校に入ってからであろう。しかしここでは、小学校のときから志を抱いていたものがあること (17.7%)、さらには就学前、幼稚園のときからの夢を育んできた学生がいるのは感動的である。そしてかつては考えられなかったことだが、80パーセントの家庭が芸大進学に理解を示してくれていることである。なかには、芸大行きを親から進められたという幸せ者も4人いる。生き方が多様化している時代の、自分の生き方で生きたいとする風潮の反映であろう。先が見えてしまっている既存の路線に集中するより、未開の地に独自の道を切り拓く可能性、その魅力に、親子ともども賭けて見ようということかもしれない。

5—中学・高校時代に好き（得意）だった科目は何ですか？（回答 90人 複数回答）

美術の46人を中心に、音楽や書道を含む芸術系が56人でもっとも多く、次いで国語の25人、社会の18人、体育の15人とつづき、数学（11人）、理科（10人）は少なく、もっとも少ないのは英語の9人であった。芸術系専攻学生の一般的傾向を反映しているといえるのではないか。

6—いま何か部活動をしていますか？制作とうまく両立していますか？（回答 93人）

部活動をしているものは34人 (36.1%) で、していないものは60人 (63.8%) いる。部活動の中身は、体育系と非体育系がほぼ半々 (16:18) である。また、制作と両立できると答えたものが12人 (35.3%)、何とかできる12人 (35.3%) で、難しいと答えたものが10人 (29.4%) もいた。多数の学生が部活動をしていないのを見ると、芸術学部は両立しにくいのだろうか。

7—夜は何時に寝る？（回答 97人）

時間帯	登校前夜	休日前夜	時間帯	登校前夜	休日前夜
10時～11時	7 (7.2%)	3 (3.0%)	11時半～12時	27 (27.8%)	13 (13.4%)
12時半～1時	34 (35.0%)	17 (17.5%)	1時半～2時	13 (13.4%)	29 (29.8%)
2時半～3時	9 (9.2%)	17 (17.5%)	3時半～4時	1 (1.0%)	3 (3.0%)
4時半～5時	0	4 (4.1%)	5時半～6時	1 (1.0%)	1 (1.0%)
いろいろ	5 (5.1%)	9 (9.2%)	寝ない	0	1 (1.0%)

現代人は夜型である。「早寝早起き」などということばは、どこか死語のような標語になってしまった。登校前夜でも、その日のうちに寝るものは35%しかなく、休日前夜になると、圧倒的(83.5%)に暦が替わってからしか床に就かない。休日前夜は寝ないと答えたものが一人。登校前夜、休日前夜を問わず、寝たり寝なかつたりというものもある(「いろいろ」の項に入れた)。なかには毎夜、酒がなくなったときに就寝時間という剛の者もある。起床時間(この項省略)と突き合わせると、総体的に当世の書生は「遅寝早起き」の睡眠不足型ということになる。その不足を、たとえばわたしの授業で補っていたりしているのは知っているのだが……。しかし、この図は昔と著しい違いはないのかもしれない。

8—夕食後は何して過ごす？(回答 97人)

・TV(含ビデオ)を見る59人 ・本を読む31人 ・作品制作をする25人 ・学校の課題や勉強15人 ・音楽を聴く17人 ・風呂に入る11人 ・インターネット(含メール)8人 ・体操(筋トレなど)7人 ・ポーとする5人 ・パソコン4人 ・ゲーム4人 ・家族等と団らん4人 ・友人と過ごす3人 ・歌を歌う3人 ・楽器を奏でる3人 ・掃除3人 ・部屋など片付け3人 ・考え事3人 ・だらだら3人 ・バイト3人 ・洗濯2人 ・落書き2人 ・習い事などの趣味2人 ・散歩2人 ・酒2人 ・電話1人 ・写真整理1人 ・その日使った費用や食べたものをメモする1人 ・買い物1人 ・映画1人 ・麻雀1人

このアンケートは複数回答をよしとしたので、回答者数(97)を超える数の集計(230)となった。わたしの予想では、TVを見て過ごすものの数(59)や、パソコンに向かっているものの数(12)がもっと多いかと想像していた。作品制作(25)や学校の課題に取り組んでいるもの(15)も意外に少ないという印象である。少ないといえ、友人と過ごすもの(3)、家族等と団らんするもの(4)の数である。そしてこれらから見えてくるものは、夜遅くまで孤独に一人部屋で過ごしている若者の姿である。他人と空間を分かち合えない若者がどんどん増えている。自分だけの空間をつくり、いつまでもそこに浸っている。自分中心で自己沈潜の度合いも深い。だから、他人にはそういう空間に入ってきてほしくないし、自分も人のところへ入って行かない。パソコンやケータイによるメル友でさえ、付き合える相手と深さにはおのずから限度がある。芸術活動にかかわる人種にそのタイプが多いのは事実だが、ここは当世の若者気質を反映しているのであろう。戸外での夜遊びが少ないのは子を持つ親にとってはなんとなく安心なのだが、それをもって、健全といえるかどうかはまた別であろう。

9—ケータイについて(回答 89人)

- ・持っている→ヶ月の使用料は？→誰が払う？
- ・持っていない→持たい？ 持たたくない？→なぜ？

回答者89人中、持っているもの85人(95.5%)、持っていないもの2人(2.2%)、白紙2人である。使用料は5000円から1万円が51人(57.3%)で最も多く、2万円が3人、3万円も1人いる。支払者

は親というのが57人(64.0%)、自分で払うのが24人(26.9%)、一定額を超えた部分を自己負担しているのが4人(4.4%)であった。いつでも本人と直接連絡がとれる便利さから、親(家族)にとっても持たせるべき必需品になっているのだろうか。反面、持っていないと答えた2人は、「煩わしい」と積極的不所持を明言している。

10—お金はいくらあってもいいものですが、あなたの財布の中にはいつもどれくらい入っていれば安心ですか？(回答 86人)

最も多いのは3000円の21人(24.4%)で、ついで5000円の17人(19.7%)だが、1000円以下でよいというのが13人(15.0%)もあり、中には120円もあれば幸せですというかわいいのもいる。

11—展覧会は年に何回くらい見る？(回答 94人)

	美術館・博物館	画廊		美術館・博物館	画廊
0回	3 (3.1%)	14 (14.8%)	9回以下	7 (7.4%)	9 (9.5%)
1回	11 (11.7%)	16 (17.0%)	10回以上	6 (6.3%)	11 (11.7%)
3回以下	31 (32.9%)	22 (23.4%)	20回以上	2 (2.1%)	0
5回以下	32 (34.0%)	15 (15.9%)	白紙	2 (2.1%)	7 (7.4%)

芸術学部の学生がどのくらい展覧会を見ているのか、かねて気になっていた。結果は以上のような有様だが、圧倒的多数が5回以下と答えている。年間5回以下といえ、ふた月に一度も見ないということだから、この数字は予想外であった。本学のある地域や通学途上に美術館や画廊が少ないことは確かである。しかし、それにしても、これは東京や京阪神地区の芸術系大学では考えられない数字ではないか。四年間の学生生活を思うと、その差は計り知れない。修業中の料理人が他店の料理を賞味しないでいるのと似ている。それは、どんなに高名な教員がいろいろと、また別な問題である。

12—こんな人に習ってみたい(回答 80人)

- ・草間弥生 ・横尾忠則 ・オノ ヨーコ ・元永定正 ・村上隆 ・奈良美智
- ・加山又造 ・宮本武蔵 ・棟方志功 ・アンゼラム キーファー
- ・大友克洋 ・いのまた むつみ ・井上直久 ・宮本亜門 ・松本ヒデオ
- ・人形アニメの作家 ・映画監督 ・第一線で活躍する作家 ・若手の現役作家
- ・秋山陽 ・深見陶冶(2) ・西田潤 ・今泉今右衛門 ・鈴木治 ・浜田庄司
- ・田阪真吾 ・岩田糸子(2) ・岩田ルリ ・ベネチアのガラス職人 ・ディノ・ロジン
- ・ディル・チフリー ・ピーノ・シニョレット ・染織の職人・ファッション・デザイナー
- ・第一線で活躍する作家 ・若手の現役作家 ・江川達也 ・現役の漫画家 ・池田あきこ
- ・めぐるみよ ・ディックブルーナ ・トーベヤンソン
- ・室井佑月 ・香山リカ ・角野栄子 ・光野桃 ・村上龍 ・ドストエフスキー

- ・建築家 ・知らぬ間に画家になっていたというような人 ・現場で働いている職人
- ・讃岐うどんの職人 ・現役のニュースキャスター ・政治家 ・辻清明 ・武田信玄
- ・鳥田伸助 ・ビートたけし (3) ・美輪明宏 ・長嶋茂雄 ・中田英寿 ・永田克彦
- ・ジェロラモ・パンツェッタ (伊語) ・芸能人 (3) ・片岡仁左衛門 ・オノサトル
- ・父・母・姉

この項は「こんな人にぜひ習ってみたいと思う人があれば何人でも挙げてください」という設問である。挙げられた人名を分野別に大別してみると、それぞれの分野（専攻・コース）ごとに、どのような表現に関心を持つ学生がいるかが少し分る。表現欲、制作意欲の旺盛な学生ほど、指導教員の表現とはまた別な芸術表現に強い関心を示すものである。それは、小説家や漫画家、絵本作家や建築家、ファッション・デザイナーなど、本学では開講されていないジャンルの勉強をしてみたいと思う思いとも通じるものであろう。さらにはTVタレントやスポーツ選手、役者や政治家など、芸術とは異なる分野の人の話が聞きたいという学生がいる。その道の達人の姿に、一流の芸術家が具える風格と自由を見出すのであろう。豊かな表現、独自の表現を得るためには、より幅広い、より多くの、他の表現に接する必要があることを、彼らは常々実感しているのである。

なお、回答80人のうち、白紙が24人 (30%)、習ってみたいと思う人「なし」と応えたものが8人 (10%) もいたことを付記しておかなければならない。今習っている内容で十分という意味かどうかは別として、40パーセントもの学生がいま以上のものを殊更求めない (いまのままで精いっぱい) ということらしい。

13—あったら受けてみたい授業 (回答 80人 複数回答)

- ・心理学 (6) ・日本の文化、美学 ・歴史、文学 ・芸術体系 ・最新の芸術論 ・人間学
- ・法学 ・考古学 ・建築 (3) ・日本の古建築 ・住環境や福祉に関すること
- ・音楽論 ・マンガ論 ・ファッション史 ・小説 (2) ・神話と美術 ・恋愛心理 ・話術
- ・イタリア語 (2) ・フランス語 ・公務員になるための勉強 ・キャリア・ラーニング
- ・写真 (6) ・3D CG (2) ・パソコン ・画材に関する授業 (5) ・油絵具の使い方
- ・木工 (オブジェ、おもちゃ) (3) ・木彫 ・ペーパー・クラフト ・玩具作り ・彫金
- ・金属溶接 ・武器のデザイン ・インテリア・デザイン (5) ・ファッション・デザイン (4)
- ・インダストリアル・デザイン ・フラワー・アレンジメント ・ビスクドール (2)
- ・バーナー・ワーク ・ガラス窯作り ・古代ガラス
- ・音楽 (3) ・人形劇、腹話術 ・声優の仕事 ・演劇、ダンスなど舞台芸術 (2)
- ・空間造形 (インスタレーション) ・絵本、童話 (4) ・テキスト購読による授業
- ・毎回異なる作家による講義 (2) ・現役作家とのディスカッション (2)
- ・実作家による自作解説 (2) ・美術館、博物館での授業 ・発掘調査の実際
- ・調理 ・うどん打ち ・きびだんご、むらすずめの作り方

この項は、「本芸術学部でない授業で、こんなのがあれば是非受講してみたい」ものを、複数回答で求めたものである。当然のことながら、多数が自分の表現とは異なる別の表現活動に関心を示している。なかには、自分の選んだ道が誤りで、自分には不向きであった、できれば今からでも変更したい、という願望として書いたものもいるかもしれないが、多くは、日ごろ関心を抱いている別の表現に触れてみて、自分の表現の幅をいっそう広い豊かなものにするヒントや刺激を得たいと考えているのだろう。坐ったまま講義を聴く「坐学」よりも「体を動かす」実技・実習系の授業内容に多数が関心を示しているのは、いかにも芸術学部の学生らしい。関心は雑多だが、より充実した「学園生活」を得させるための参考になる。

なおこの項でも白紙回答7人、別に習いたいもの「なし」としたものが6人あった。80人中13人(16.2%)は現カリキュラムで満足しているか、あるいは精いっぱいということであるらしい。

14—あなたがこの大学を出て目指しているものは何ですか？ (回答 81人)

- アーティスト 41 (50.6%)
- アートに係わる仕事 7 (8.6%) (↓)
 - ・工芸品を扱う仕事 ・芸術家を目指す人を助ける ・陶芸教室の先生 ・小さな工房の職人
 - ・絵画教室を開く ・色彩セミナーの講師 ・途絶えそうな伝統技術の継承者
- 美術、工芸の教師 7 (8.6%)
- 学芸員 2 (2.4%)
- その他 13 (16.0%) (↓)
 - ・印刷の仕事・ジープ作り・福祉・青年海外協力隊・パフォーマンス・物語を書く・映像の会社をつくる・SAN-Xに入りたい・自分の価値を高められる仕事・子供に誇れる仕事・大学の歴史に名を残す・大学革命者・役者
- たくさんあって考え中 3 (3.7%) 分らない 4 (4.9%) 白紙 4 (4.9%)

アーティストを目指すものの多くは自分が専攻しているコースをそのまま進んで、その道の作家になりたいと思っている。画家、デザイナー、ガラス工芸作家、陶芸家、染織家等々、3年生にもなると目標はかなりはっきりと定まってくる。アートに係わる仕事をしたいもの、教師や学芸員を目指すものも含めると、実に70.3パーセント(57人)という高率でアートに係わって生きていきたいと考えている。いまさらアートを放棄してもどうにもならず、開き直るしかないというものもいるかもしれないが、彼らはまだ3年生で、卒業後の身の処し方にそれほど切実感がないということもあろう。しかし、すでに美術にこだわらない別の仕事に夢を馳せる若者が少なからずいることも、あわせて注目しておいてよい。なぜなら、彼らの夢がなぜアートから離れたのか、その原因が本人の能力や選択ばかりでないかもしれないからである。

15—もしも自分の過去に戻れるとしたらどこまで戻りますか？ (回答 92人)

- 5分～1週間前 3人 (3.2%) 大学1～2年 5人 (5.4%)

高校時代	21人 (22.8%)	中学時代	12人 (13.0%)
小学校時代	20人 (21.7%)	乳幼児期	7人 (7.6%)
生まれる前	7人 (7.6%)	生まれる前か今のまま	1人 (1.0%)
戻らなくてよい	16人 (17.3%)		

人は時として自分の越し方を振り返り、やり直せるものならやり直したいと思うものである。ここでは高校時代以前に戻りたいというのが65.2パーセント（60人）もあり、それだけ多くの若者が今の自分に多少とも不満を抱いているということであろうか。進路を誤ったか、学校の選択を誤ったかと思っているのかもしれない。若者ゆえに、自分に対して厳しい評価になるのであろう。とまれ、できることならどこかの振り出しに戻って、もっとまじめにやり直してみたいと思っているものが過半数いる。

逆に、今のままで過去に戻らなくてよいと答えたものが17.3パーセント（16人）おり、戻るとしても、本学入学後とするものが8.6パーセント（8人）で、あわせて26.0パーセント（24人）の学生は、本学を選んだことに不満はなかったと思っているように読める。

一方、生まれる前に戻りたいとしたものが7.6パーセント（7人）もいる。振り出しの原点が生前といわれると、わたしなんかには、生まれてこなければよかったと読めてしまうので、ちょっと寂しく、つらい。

16—いまの自分に声をかけてやるとすると、どんなことばがふさわしいですか？（回答 92人）

がんばれ、元気を出せ、何事も行動から、ポジティブに、やればできる、努力を怠るな、ガラガラを直せ、まじめにやれ、今が勝負、走れ、何してんの！止まるな、自分に厳しく、自覚を持て、一から出直せ、他人に流されるな、何も考えず進め、我慢、あせらず行け、後悔することのないように、見聞を広げよ、もっと絵を描け・・・（60人 65.2%）

お疲れさん、よくやっている、頑張るな、力まない、大丈夫、ほちほちいこか、何とかなるし何とかする、もっと笑って幸せ感じて、よく食べ・よく寝・よく遊べ、人に優しく、頭脳を柔らかく、わたしが一番正しい・・・（18人 19.5%）

その他（11人 11.9%）、白紙（3人 3.2%）。

この問いは、学生たちが自分の暮らしぶりをどう見ているかを探るものである。「がんばれ」にはじまって、勉強や生活の態度が生ぬるいと感じているものが圧倒的である。いつも親や教師などから言われることばを、自分の口でも言い聞かせ、充実した日々を送らないといけないと叱咤している。いつの時代も若者の多くは、無為に過ごした月日のことを反省、後悔しながら、いつの間にか妥協と成り行きに身をゆだねてしまうものだが、心が柔軟で熱いうちに、ことさら自問させてみることは悪いことではない。

ここに挙げたことばは、雑多に出てきたものをいく山かに整理した上で、代表的なものを記したものである。自戒を込め、自らを激励することばは65.2パーセント（60人）に上った。

一方、自分は日ごろよくがんばっていると思い、褒めてやるもの、今の自分に欠点があるとし

でもそれを否定しないで、この調子でいこうと考えているものなど、現実肯定派が19.5パーセント（18人）いた。実際、まじめに充実した日々を送っている学生がいることは確かだし、また芸術に携わろうとするものが、常にリラックスを心がけることも大事なことである。

17—あなたは自分を若いと思いますか？若いとはどんな年齢をイメージしますか？

（回答 93人）

若いと思うものが53人（56.9%）しかなく、若くないと思うものが34人（36.5%）もいたのは驚きである。他に、どちらともいえないというのが6人（6.4%）あった。若さのイメージは「20歳未満」を挙げたものが最も多く35人（37.6%）、自分の年齢を書くとき、1の字が頭にあるのと、2の字をつけるのとではイメージが全然違うということであろうか。そういえば、大学三年生は全員20歳になっている。

アンケートは、この他に「社会について最も気になることは？」「あなたの好きなことばを教えてください」「もし今夜見る夢があす実現するとしたら、どんな夢が見たいですか？」など15項目余りの問いを設けたが、紙幅の関係で省略せざるを得なかった。

アンケートを集計しながら、どこまで学生が素直に答えてくれているかということがいつも気になっていた。もとより出席カードに便乗したものであり、彼らは記名で答えなければならなかったからである。一般に記名式のアンケートには、どこか構えてしまうところがある。本音がコントロールされてしまうことがある。まして授業内での教師と学生の関係である。しかし、それゆえに、かえって不真面目には答え難かったということはある。ふざけた答えで、集計に困るということはほとんどなかった。とにもかくにも、最多値を公約数的にたどれば、「学校から30分以内の通学圏に住み、朝食は大体食べてくるし、昼は学食で米飯類を食べる。授業が一週14コマなので、土、日以外に一日自宅研修日が取れる。高校時代、美術が得意だったので芸術系を志したが、親の反対もなく本学に入学した。部活動は制作との両立が難しそうだからしていない。夕食後はTVを見たり、本を読んだり、時には課題や制作をして過ごし、登校日前夜でも夜は12時半から1時ころにならないと寝ない。ケータイは必需品なので親が使用料を払ってくれるし、展覧会も年に5回以下だから、小遣いは月3000円もあればよい。たまには本学教員以外の有名人の話が聞きたいし、本校で開講されていない授業もしてほしい。卒業後はできれば作家（アーティスト）になりたい。もう一度、入学以前に戻って、やり直してもみたいが、そんなことは無理なので、自分に“がんばれ”と励ますしかない。20歳はもう決して若くないからである。」というようなことになろうか。

そして、

18—いま、何を言ってもよいとしたら、あなたは誰にどんなことが言いたいですか？

両親や家族に「ありがとう」

神様に「一日を36時間にしてください」

アパートの住民に「もっとマナー守ろうよ」

英国のウィリアム王子に「彼女はいますか？」

片思いの人に「好きです！」

おじいちゃんに「孫ですよ～」

ブッシュ大統領に「何で戦争が好きなのですか」

小泉首相に「あなたより私の方がヨイ日本にする自信がある」

平野先生に「なぜこんなアンケートをするのですか？」

以上。

(追記) 設問 (34項目) のなかには、学校に関して、「本学についてもっとも関心のあることは何ですか?」「あなたにとって本学のよいところはどんな点ですか?」「学ぶにあたってあなたの不満は何ですか?」などの問いもしている。これらは本稿の趣旨に沿わないのでここでは触れなかったが、リアルな指摘や意見が散見される。学部や大学の課題として検討に値するものが多い。別途、参考資料として活用できればと考えている。

最後に、私から学生諸君へ「アンケートにお付き合いいただきありがとうございます」

The Students' Way of Thinking in the Present Day

Shigemitsu HIRANO

College of Arts,

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received September 24, 2004)

I set out a questionnaire in order to know how the students in the present day lead a life and what they think about people and things around them. The questionnaire was conducted on the juniors belonging to the College of Arts in our Kurashiki University of Science and the Arts. In this thesis I would like to show the highest common factors of the students' replies to all the 18 questions in the survey.

Most of the students live near the University, and it takes them less than 30 minutes to go to and from the University. And generally speaking, they have breakfast. They have about 14 classes a week, so they can have one more studying day at home besides Saturday and Sunday. In their high school days, they were good at artistic subjects, so they hoped to major in art in college or university, entering our University without parents' objections. They usually don't belong to any clubs, because of their conjectured busyness for artistic work. They spend the time after supper watching TV or reading books, and they sometimes sit up late till midnight working on their own arts, even at night before the day on which some classes are to be given to them. The sum of their pocket money a month is about 3,000 yen, which is enough for them to spend on their daily necessities. The students in general want to listen to lectures by famous artists outside the University. Most of the students hope they will be able to act as artists after graduation. A part of the students imagine that if they could go back to the days before entering the University, they would try to make efforts again. However, as they do know such an imagination is very difficult or impossible for them to realize, it seems that they only try to encourage themselves to "keep hanging on."

This list mentioned above is the main contents of the students' way of living and thinking in the present day. From the data, I hope we can obtain a suggestive knowledge to understand and lead the today's students interested in art.